

おぢや

市議会だより



OJIYA CITY ASSEMBLY

NO. 62

23.10.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505



小千谷市立図書館 西脇順三郎記念室・記念画廊

小千谷市立図書館は昭和53年に市民の教養と文化の向上に役立てるために設置されました。図書館内には開館と同時に「西脇順三郎記念室」を開設。昭和59年には記念画廊を開館し偉大な先人の功績を称えています。現在、図書館の総資料数128,801点、年間利用者数約4万3,000人と「市民の憩いの場」「市民の学びの場」として、役立ち親しめる図書館を目指しています。読書の秋、皆様のご来館をお待ちしています。

(小千谷市土川1丁目3番7号 TEL82-2724)

- 第3回定例会議決結果 …… P2
- 常任委員会報告 …… P2~4
- 一般質問 …… P4~7
- 議会日誌、雪あかり …… P8
- 編集後記 …… P8

—主な掲載内容—

平成二十三年小千谷市議会
第三回定例会
議決結果

九月二日から二十一日まで開催し、次のとおり議決いたしました。

条例の制定・改正

- 小千谷市褒賞条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市有財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市民学習センター条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市スポーツ振興審議会に関する条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定(全会一致)
- 小千谷市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例及び小千谷市立

学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例を廃止する条例の制定(全会一致)

平成二十三年度予算の補正

- 小千谷市一般会計補正予算(第四号)(全会一致)
- 小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)(起立多数)
- 小千谷市介護保険特別会計補正予算(第一号)(全会一致)

平成二十二年年度決算の認定

- 小千谷市一般会計歳入歳出決算認定(起立多数)
- 小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定(起立多数)
- 小千谷市老人保健特別会計歳入歳出決算認定(全会一致)
- 小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定(起立多数)
- 小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定(起立多数)
- 小千谷市工業団地事業特別会計歳入歳出決算認定(全会一致)

- 小千谷市ガス事業会計決算認定(全会一致)
- 小千谷市水道事業会計決算認定(全会一致)
- 小千谷市工業用水道事業会計決算認定(全会一致)
- 小千谷市下水道事業会計決算認定(全会一致)

その他

- 専決処分(小千谷市税条例等の一部を改正する条例)(全会一致)
- 専決処分(小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例)(全会一致)
- 専決処分(平成二十三年度小千谷市一般会計補正予算(第三号))(全会一致)
- 専決処分(新潟県市町村総合事務組合規約の変更)(全会一致)
- 財産の取得(高規格救急車)(全会一致)
- 財産の取得(ロータリ除雪車)(全会一致)
- 財産の処分(全会一致)
- 小千谷市道路線の認定(全会一致)

請願

- 「社会保障と税の一体改革」による消費税の増税は行わないことをもとめる請願(不採択)

- 自然エネルギーの開発と普及プログラムを決めた原発からの撤退を求める意見書提出に関する請願(不採択)

- 「私立高校生が学費を心配せず学べるように、学費軽減助成と経常費助成の増額・拡充を求める意見書」の採択に関する請願(趣旨採択)
- 小千谷市に県立特別支援学校設置を求める意見書の提出に関する請願(採択)

発議

- 私立高校生が学費を心配せず学べるように、学費助成の増額・拡充を求める意見書(全会一致)
- 小千谷市に県立特別支援学校設置を求める意見書(全会一致)

常任委員会報告

総務文教委員会

本委員会に付託されました議案十二件、請願四件については、関係課長等の出席を求め慎重に審査を行い、議案十二件は原案のとおり可決・認定すべきものと決し、請願のうち二件は不採択、一件は趣旨採択、一件は採択するものと決しました。

○議案第五十二号 小千谷市褒賞条例の一部を改正する条例の制定について
 本案は、審査委員会の委員数を七人から六人に改正するものです。

○議案第五十三号 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 本案は、法律の一部改正に伴い、一定の要件を満たす非常勤職員の育児休業及び部分休業についての規定を加えるものです。

○議案第五十四号 小千谷市有財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 本案は、行政財産の無償又は



減額貸付の拡充を図るものです。

○議案第五十五号 小千谷市民学習センター条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、施設の一部を「おぢや震災ミュージアムそなえ館」として整備することや、市民の利便性向上及び効率的な運営の為休館日及び利用時間などについて変更するものです。

○議案第五十六号 小千谷市スポーツ振興審議会に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、スポーツ基本法の制定に伴い、関連事項について改正するものです。

○議案五十七号 小千谷市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、法律の一部改正に伴い、平成二十三年三月十一日以降に生じた災害に関し、遺族に支給する弔慰金の規定について改正するものです。

○議案五十九号 平成二十三年度小千谷市一般会計補正予算(第四号)について

今回の補正は、歳入歳出それぞれ六億六千三百二十九万四千円を追加し、歳入歳出予算の総

額をそれぞれ百八十五億九千二百一十八万八千円とするものです。

○議案第六十二号 平成二十二年年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、百九十三億三千七百七十四万四千四百七十六円、歳出決算額は百八十七億二千三百七十七万二千五百一十円、差し引き六億七百万四千二百二十五円。翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は、四億八千五百八十二万二千二百二十五円の赤字となりました。

○議案第六十八号 平成二十二年年度小千谷市ガス事業会計決算認定について

業務実績は、前年度に比べ供給戸数は十六件減の一万五千五百五十五件、供給量は十二・五パーセント増の千六百八十三万四千五百七十七立方メートルとなりました。経営成績では、百五十七万三千円の当年度純損失となりました。

○議案第六十九号 平成二十二年年度小千谷市水道事業会計決算認定について

業務実績は、前年度に比べ給水戸数は九八件増の一萬三千七百二十四件となり、有収水量は一・三パーセント増の四百四十

五万四千四百四十八立方メートル、給水収益は一・一パーセント増の六億九千九百九十三万五千円となり、経営成績では、八千八百二十万五千円の当年度純利益となりました。

○議案第七十号 平成二十二年年度小千谷市工業用水道事業会計決算認定について

業務実績は、前年度に比べ給水量は三・七パーセント増の二百六十五万九千九百九十五立方メートルとなりました。経営成績では、六千五百五十二万三千円の当年度純利益となりました。

○議案第七十一号 平成二十二年年度小千谷市下水道事業会計決算認定について

業務実績は、水洗便所設置済人口は三万三千八十三人、水洗化率は八十八・七パーセントとなり、有収水量は三百五十八万二千六百六十四立方メートルで、有収率は九十四・五パーセントとなりました。経営成績では、七千八百八十八万二千円の当年度純利益となりました。

○請願第四号 「社会保障と税の一体改革」による消費税の増税は行わないことをもとの増額について

本請願は、採択しないものと

決しました。

○請願第五号 自然エネルギーの開発と普及、プログラムを決めた原発からの撤退を求める意見書提出に関する請願について

本請願は採択しないものと決しました。

○請願第六号 「私立高校生が学費を心配せずに学べるように、学費軽減と経常費助成の増額・拡充を求める意見書」の採択に関する請願について

本請願は経常費助成の部分を除き趣旨採択するものと決しました。

○請願第七号 小千谷市に県立特別支援学校設置を求める意見書の提出に関する請願について

本請願は採択するものと決しました。

本案は、二十二年度の医療費に係る保険給付費等の確定に伴う精算によるもので、既定の予算総額に歳入歳出それぞれ一億七千三百三十七万四千円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ三十八億五千四百八十八万五千円とするものです。

○議案第六十一号 平成二十三年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第一号)について

本案は、二十二年度の介護給付費等の確定に伴う精算によるもので、既定の予算総額に歳入歳出それぞれ千八百六十六万七千円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ三十五億千六百六十六万六千円とするものです。

○議案第六十三号 平成二十二年年度小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、三十八億五千六百一十一万七千円、歳出決算額三十六億八千四百七十四万二千円、歳入歳出差引残額一億七千三百三十七万五千円を翌年度へ繰越すものです。

○議案第六十四号 平成二十二年年度小千谷市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、二百八十八万八千円、歳出決算額も二百八十八

民生産業委員会

本委員会に付託されました議案八件について慎重に審査を行い、原案のとおり可決・認定すべきものと決しました。

○議案第六十号 平成二十三年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)について

八千円で、歳入歳出差引額ゼロ円となり、小千谷市老人保健特別会計は平成二十二年度で廃止となります。

○議案第六十五号 平成二十二年度小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、三十三億六千四百二十五千円、歳出決算額三十三億五千九百九十四万八千円で、歳入歳出差引残額千二百七十七千円を翌年度へ繰越すものです。

○議案第六十六号 平成二十二年度小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、六億八千八百九十万三千円、歳出決算額六億八千六百六十六万四千円で、歳入歳出差引残額七百二十三万九千円を翌年度へ繰越すものです。

○議案第六十七号 平成二十二年度小千谷市工業団地事業特別会計歳入歳出決算認定について

歳入決算額は、一億七千七百九十八万八千円、歳出決算額一億七千七百八十一万二千円で、歳入歳出差引残額十六万八千円を翌年度へ繰越すものです。

○議案第七十五号 小千谷市道路線の認定について

本案は、都市計画道路として事業中の道路一路線、民間の宅地開発に伴う団地内道路二路線を市道に認定するものです。

市政の内容を聞く 一般質問

電源三法による交付金と特別支援学校の設置について

田中 淳 議員

質問 電源三法による交付金について

①県内・全国の市長会への働きかけと現在の動きや国内における類似例は。

②基準発電電力量と今後この問題について谷井市長の考えは。

答弁 ①「電源立地地域対策等の充実強化」について全国市長会が国に要望。関係省庁からの回答を確認の上、対応をする。県内においては水路式しかないが水力による自家発電施設をもっている事業所は全国に多数ある。

②千手・小千谷・小千谷第二発電所の合計は推計で十二億六千万キロワットアワーです。国の法適用に関する問題であり、全国市長会を通じて行動していきたい。

質問 特別支援学校の設置について

①具体的な候補地。現在の進捗状況及び県の対応や今後について。

②特別支援学級での児童・生徒に対する教師の比率・定員数。一人あたりの年間公費負担額ほどの程度なのか。

市長答弁 ①南部地区四小学校統合後の空き校舎のうち、新耐震基準による校舎を最優先で考えている。県とは事務レベルでの協議を進めており、関係者の合意を含め準備が整い次第、正式に県へ要望したい。

教育長答弁 ②一クラス支援学

級では八人以下、支援学校では六人以下、重複障がい学級では三人以下となっている。年間公費負担額は、小学校で百五十万円、中学校で百十五万円、特別支援学校八百七十六万円です。

原子力防災計画の新設を

風間 健一 議員

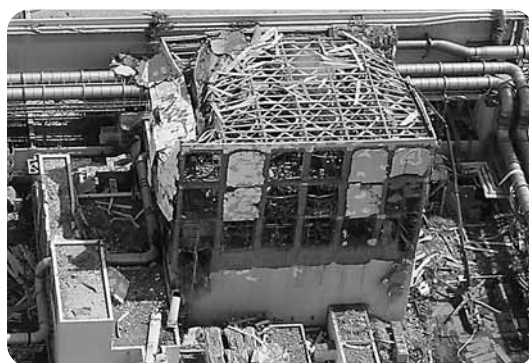
質問 原発事故に対する専門職員育成や専門部局を設けるべきだと思いますが、市長の考えを伺いたい。

答弁 総務課に危機管理室を設置し、担当職員が県主催の勉強会に出席するなど原子力災害の知識の習得に努めています。

質問 原発事故に備え市内各地域の拠点に安定ヨウ素剤を配備し、いざというときに迅速に対応することが行政の責任だと思いが市長の考えを伺いたい。なお、小千谷市の三十九歳以下の人口は八月末現在で約一十五万人。ヨウ素剤の備蓄は数十万円あればできます。

答弁 国・県と連携して対応したい。
質問 柏崎刈羽原発の過酷事故

に備えて小千谷市原子力防災計画を作る必要があると思うが市長の考えを伺いたい。
答弁 地域防災計画に「原子力災害対策編」を新設したい。



質問 原子力安全協定とは、原子力事業者と地元自治体との間で結ばれる協定で、主な内容は次のようなものがあります。

- ①周辺環境における放射線の共同監視
- ②異常時等における情報の迅速な連絡・通報義務
- ③地元自治体による立入り調査・安全措置要求の受入れ
- ④施設の新設または増設、変更に対する地元の事前了解

⑤ 運転停止を求める権限
⑥ 施設の安全確認の実施

小千谷市も東電と安全協定を結んで頂きたい。

答弁 上越市、長岡市、新潟市が開催する勉強会に参加し、安全協定の締結も共同歩調をとっていききたい。

農業問題について

阿部 正行 議員

質問 小千谷市における農林業は小規模農家や経営者の高齢化等の課題をかかえ、他方、認定農業者となつて経営規模の拡大など積極的な取り組みも見られる。また、農林業そのものは市民を取り巻く環境の良さや土地の保全等いい面を持っている。四点お伺いをしたい。

- ① 農業所得の向上について
- ② 新潟・福島豪雨について
- ③ 戸別所得補償制度について
- ④ TPP 環太平洋連携協定について

答弁 ① 農業所得の向上については農家も企業も同様コスト意識に目覚め、常にコスト軽減に向け努力することと農産物を高



く売る事により利益率の向上と設備投資や耕作地の集約化、集団化が大切であり、JAと共に担い手の育成等積極的に取り組んで行きたい。耕作放棄地については農地の有効活用と農地のデータバンク化を今後検討して行きたい。

② 新潟・福島豪雨は七月末に発生し被害額は農林関係で約六億七千万円（八月末時点）で今後の調査で増加も予想される。復旧については国・県等の制度に基づき早急な対応をして行きたい。

③ 戸別所得補償制度については昨年の米に今年より畑作が加わり、交付金の良さが農家に伝わ

り、加入者が増加している。今後も国の制度を活用し米価安定を図って行きたい。

④ TPP 環太平洋連携協定については昨年の市議会第四回定例会の通りであるが、外交通商の問題であり、国が判断するべき事柄で国益を最優先するべく国が情報を十分開示し、国民的な議論を基に判断する事が重要だと考えている。

市民の期待と評価に係る諸課題について

長谷川有理 議員

質問 ① 原発事故に対する市民の不安軽減を。

② 市民や企業の自然エネルギー活用に支援を。

答弁 ① 市内の数値は安全な範囲。県の測定器を借用して測定をする考えはない。市の測定器は発注済み、県の数値に異常があれば使う。学校給食食材の独自検査はしない。汚泥は八月以降保管している。

② 市庁舎は今夏三十三・九パーセントの電気量減。当市の自然エネルギー支援策は考えていない。国・県の補助制度を紹介し

たい。

質問 ① 公約通り病院統合は進んでいるのか。

② 子育て支援・障がい者雇用推進策は。

答弁 ① 病院統合は平成二十一年十月の方針から変化しない。話し合い継続中。内容は言えない。

② 休日保育はニーズが少なく実施しない。指摘の通り当市は障害者法定雇用率を達成していないが、臨時職員採用で達成した。精神・知的障害者雇用促進啓発もハローワークと連携して行う。

質問 更なる行政改革と体質改善を。

答弁 市報記事のミスマッチの指摘は理解できない。市長交際費は今後公開する。天下りはないと思う。

質問 ① 新潟・福島豪雨で夜間・早朝の情報収集や避難等体制に不備はなかったか。

② 同じ箇所が何度も被害にあっている。従前復旧でなく都市計画を交えた治水計画を。

答弁 ① 防災計画やマニュアルに従った行動で不備はなかった。抜本的河川改修を県に要望している。



応急復旧に励む町内の皆さん

② 都市計画・治水計画は地権者以外にも影響が及ぶため調整が極めて困難。関係住民と共に熱意を盛り上げていくことが大切。

市民の健康診査について

山賀 一雄 議員

医療構造改革に基づき健康増進・医療費の適正化方策で、平成二十年度から生活習慣病疾病予防としてスタートした特定健康診査・特定保健指導について

質問 ① 特定健康診査率が目標値と前年度を下回っている要因は何か。

② 後期高齢者健康受診率も同様

に低く、制度改正前に比較すると大きく下回っている。この要因は何か。

③健診率が低ければ多くの未受診者がいる。これらの把握と啓発の取り組みは。

④生活習慣病対策の推進体制として医療保険者等で組織する協議会の実態は。

⑤医療費の適正化・抑制等の効果は。

⑥小千谷市独自の総合的な健康診査制度を設けて、保健事業に取り組んでどうか。

答弁 ①結果として目標値を下回ったが、高血圧等で医療機関にかかっていて、改めて健診を希望しない人が多いことが考えられる。

②県の実施要領では生活習慣病により医療機関で受療している人は除くとしており、医療機関等で検査を受けている人が多いと考えられる。

③住民検診調査を実施しており、調査票の未記入者及び健診を受けないとする人には、保健師が受診勧奨をし、受けない理由等を把握している。

④魚沼地域職域連携推進協議会が組織され、特定健診の実施体制等を検討していたが、現在は

健康増進計画、食育推進計画について検討している。

⑤特定保健指導の経過を見ると、生活行動に変化が表れ、それなりの効果が出ていると評価しているが、医療費の適正化には十年単位での状況変化を見る必要がある。

⑥特定健診・胸部レントゲン・胃がん・大腸がんの四つの検診を併せて「総合健診」を実施しており、受診者が増加していることから、今後も広く周知していきたい。

消防団・自主防災会・表沢川について

久保田陽一 議員

質問 消防団の入りやすい環境づくりについて。

①団員が条約定数に達していない現状をどう捉えるのか。

②消防団協力事業所への優遇措置の導入の有無。

③防災公園でのポンプ操法競技練習場整備の見解。

答弁 ①消防団と連携を図りながら団員に対する支援、福利厚生の上など入団しやすい環境づくりを検討し団員確保に努め



たい。

②消防団協力事業所の定着を図ると共に認定事業所の増を図っていききたい。

③防災公園として整備後、活用策としてポンプ操法競技練習場としての利用は可能である。

質問 自主防災会について。

①自主防災会の役員・役割とは

②市での保険の加入、斡旋の予定は。

③防災士の導入、経費の負担。

答弁 ①役割は災害時の消防団が行う水防活動等の後方支援と認識する。今後は消防団活動等とのすみ分けの検討を進める。

②保険は今後、調査・研究していきたい。

③当市の資格保有者は十名程度。防災士が国家資格ではないことや資格取得期間が長いことなど受講者が少ない現状があるが、資格取得支援に向けて検討していきたい。

質問 七月豪雨以降の表沢川についての当市の県への働きかけとそれに伴う県の反応・対応。今後の予定。

答弁 8月下旬に長岡地域振興局小千谷維持管理事務所から口頭で今年度中にも改修事業のための調査・測量作業を開始する旨を伺っている。今後も県への働きかけを一層強めていきたい。

小千谷市自主防災組織病院統合問題

本田 剛 議員

質問 小千谷市自主防災組織について

①自主防災会の役割と防災活動として義務付けられている範囲は。

②自主防災会会員の活動時での事故の見舞金または補償金について。

答弁 ①活動範囲を明確にする必要がある検討する。

②災害弔慰金を支給すべきと考えている。自主防災会が加入できる保険についても調査、研究していく。

質問 病院統合問題の現在までの経過、今後の見通しについて。

①現在の進捗状況は。

②統合の必要性をどのように考えているのか。

③病院統合の場合、立地地域について。

④統合についての資金は、どの程度考えているのか。



【答弁】 ①統合する方針は変わりなく現在、鋭意三者で協議中である。内容は現時点ではまだ言えない。

②両病院とも年々常勤勤務医が減少、医療確保が困難等で診療体制が縮小の状況。地域医療確保のため統合再編は必要と考えている。

③経営主体となる団体が決めるべき事柄である。

④具体的な内容が決定したわけではないので、支援金額を言う段階ではない。時期がきたら市議会に相談したい

災害危機管理・総合病院の統合について

山本 道男 議員

【質問】 新型災害対応用危機管理体制に見直す時期でないか。

①ハザードマップの見直しに加え、避難方法や避難場所について市民に周知すべきでないか。

②被災者受け入れマニュアル作成に加え、費用について全額国費負担を要望すべきでないか。

③自主防災会のあり方や補償問題を再検討すべきと考えるが。

④放射線測定器により、定時定

点観測等を実施し、データを市報等で公表すべきでないか。

⑤湯殿川の排水ポンプは常時三基設置すべきでないか。

⑥放射能関係の出前授業を積極的に取り入るべきでないか。

【答弁】 ①県に浸水地域の早期策定を要望し、避難方法や場所について早急に対策を図りたい。

②国県の広域避難対処法が明示された時点で検討したい。負担については現在要望中である。

③自主防災会のあり方及び補償問題について調査研究したい。

④学校、保育園を中心に放射線の定期的観測を行い、市報やホームページ等で公表したい。

⑤県を通じ、引き続き国土交通省に要望を行いたい。

⑥放射能に対する正しい理解が大切なため、中学三年生を対象に検討したい。

【質問】 病院の統合問題について。

①今年度の統合の可能性について、併せて、統合の進まない理由が金銭的問題なら支援金等の名目で援助すべきと考えるが。

②先端医療を取り入れた魅力ある病院建設に加え、今までの枠を超えた設備投資補助金の考えはないか。

【答弁】 ①三者で話し合いを継続

中で内容を申し上げられない。②先端医療の重要性は認識しており、統合協議の中で検討したい。支援については有形の支援も不可欠であると考えている。

公契約の現状について 放射線量測定について

川上 直栄 議員

【質問】 公契約の現状について

①当市の入札における公共事業の件数と額の推移は。

②予定価格の決定方法は。

③発注先の決定方法及び総合評価方式の導入は。

④最低制限価格制度と低入札価格調査制度は。

⑤コスト削減が優先され、非正規雇用が増えているか。

【答弁】 ①平成二十二年度は百六十八件で十五億千二百万円、二十一年度は百九十一件で二十八億八千万円、二十年度は百九十四件で四十八億八千万円、小千谷小学校改築事業費の多くを二十年度に集計している。

②国や県が定めた建設工事の積算基準などによって設計した金額に基づいて決定している。

③入札価格によって落札者を決

定している。総合評価方式は平成十九年度から「試行」導入している。

④最低制限価格は設けているが低入札価格調査制度は設けていない。

⑤平成十八年度と二十一年度の比較では、わずかに上昇している。

【質問】 放射線量測定について。

①保育園、学校等での測定値は安心できる数値か。

②空間測定だけで大丈夫か。

③今後も定期的に測定、公表するか。

【答弁】 ①県が通常の測定範囲としている一時間当たり〇・一六マイクロシーベルト以下であり、安心できる数値と考えている。

②県のマニュアルに基づき計測したもので大丈夫と考える。

③当分の間、月一回程度測定し、公表していきたい。



議会中継

市議会本会議は市ホームページからインターネット中継でご覧いただけます。

(生中継は本会議開会時、録画中継は本会議開催日のおよそ5日後から、翌定例会の初日の前日まで)

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp>



会議録の閲覧

市議会本会議の会議録(平成15年第1回定例会以降)は市ホームページからご覧いただけます。

ただし、平成23年第3回定例会の会議録掲載は、11月末頃となります。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp>

議会日誌 7月～9月

〈7月〉

6日 議会報編集委員会
11日 総務文教委員協議会
(学校訪問)

12日 愛知県日進市議会行政視察に来市

13日 議会報編集委員会

20日 東京都杉並区議会行政視察に来市

25日 水明会・緑風クラブ行政視察に出発(福島県北塩原村・喜多方市)

26日 政友会行政視察に出発(群馬県渋川市・みどり市)

29日 山形県小国町議会行政視察に来市

〈8月〉

3日 議員協議会

〃 東京都足立区議会行政視察に来市

10日 民生産業委員協議会
11日 議員全員協議会
(豪雨災害現地視察)

25日 県市議会議長会秋季定期総会(五泉市)

26日 議会運営委員会

〃 第三回定例会(本会議)

〃 議会報編集委員会

5日 二常任委員会連合審査会
6日 二常任委員会連合審査会
7日 総務文教委員会
8日 民生産業委員会
〃 徳島県議会行政視察に来市

15日 議会運営委員会

〃 本会議(第二日)

16日 本会議(第三日)

〃 議会報編集委員会
21日 議会運営委員会
〃 本会議(第四日)

第4回定例会開催予定

市議会を傍聴してみませんか

12月5日(月) 第1日 議案上程説明
12月6日(火)～8日(木) 各常任委員会で審査
12月19日(月) 第2日 一般質問
12月20日(火) 第3日 一般質問(質問者が多い場合に開催)
12月22日(木) 最終日 委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel.83-3505)へお問い合わせください。



44



阿部 久雄(薙生)

ひう福祉会は、設立以来、今年で六年目を迎えた市内で十八番目の中堅?福祉会です。

事業内容も年々充実し、最近では「おくりびと」の撮影会を実施しました。納棺師の仕事を通して描かれたユーモアと涙が心の琴線に触れる作品で、参加者には大!好評でした。

役員は皆、探求心旺盛な気の合った仲間たちで、和気あいの楽しい活動を行っています。

想定外の言葉が飛び交う昨今超大型台風一過の快晴の中、参加者二十四名で聖籠町の坂上園へ日帰りバス旅行を実施し、ぶどう狩りを行ってきました。ピンク色の信濃スマイルの美味を堪能し、ぶどう棚の下でのパーベキューは、食欲と共に友愛を

育くむ貴重な一日となりました。

私事ですが、早いもので退職後六年の月日が経過しました。

当初、環境の変化で心身共に弊害がでるのではと気掛りでしたが、午前中会社勤めを行うことで、メリハリのある生活を送ることができ、なんとか人生の軟着陸を果たせそうと自己満足している今日この頃です。

二十年前から培ってきた家庭菜園は、馬鈴薯に始まり大根で締め、天変地異を良とし、晴耕雨読の毎日を楽しんでいきます?自由な時間に感謝し「寛容と忍耐を学び、一隅を照らす明かりの集合体で有りたい」と願うひう福祉会です。



編集後記

七月末の新潟・福島豪雨でお亡くなりになられた方に心よりお悔み申し上げますとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

早いもので、あれから三カ月が過ぎようとしております。来春の農作業に影響が無いよう、復旧が一日も早く終わることを願っております。

中越大地震から七年が過ぎ、二十三日には様々な行事が行われます。中越メモリアル回廊の一つとして、小千谷震災ミュージアム「そなえ館」もオープンいたします。震災の体験から得た教訓を多くの人々に伝えるため、有効に活用されることでしよう。

紅葉にはまだ少し早いですが、日の短さに秋の深まりを感じます。そろそろ冬支度の時期になります。今冬の降雪はどうなるでしょうか。夏が暑いと雪が多いと昔から言われております。昨冬のように豪雪にならないことを期待する以外にありませんが、備えだけはしっかりとっておきたいものです。